

# 避難行動要支援者の避難に係る支援 「個別避難計画の作成について」

(長野市障害ふくしネット第2回全体協議会資料)

令和4年3月25日

長野市保健福祉部福祉政策課

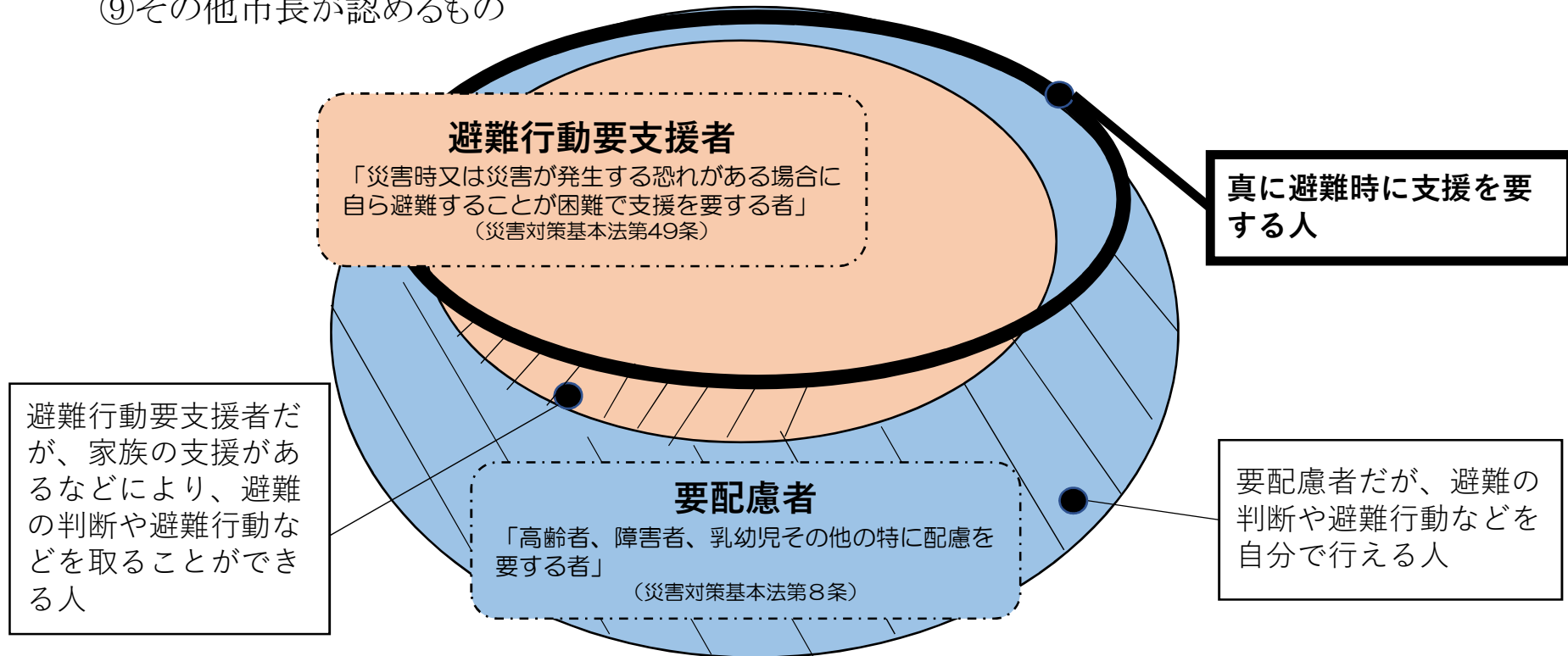
# 1 避難行動要支援者の避難に係るこれまでの市の取組

2

## (1) 避難行動要支援者名簿の作成

【本市における避難行動要支援者の範囲】

- ①75歳以上独居 ②75歳以上の高齢者のみ世帯 ③要介護度3以上 ④身体障害者手帳1・2級
- ⑤視覚障害者及び聴覚障害者 ⑥療育手帳A1・A2 ⑦精神障害者保健福祉手帳1級 ⑧難病
- ⑨その他市長が認めるもの



- ・市が避難行動要支援者台帳を作成し、避難行動要支援者の同意を得て、消防局、消防団、警察、民生委員、社会福祉協議会、住民自治協議会及び自主防災組織へ**避難行動要支援者名簿**として提供

◎令和3年度現在 避難行動要支援者 約38,000人

## (2) 個別避難計画の作成

・避難行動要支援者の避難支援が円滑にできるように、あらかじめ要支援者一人ひとりについて、誰が支援して、どこの避難場所にどうやって避難させるかを事前に決めておく計画

個別計画作成済 行政連絡区	平成25年(2013年)	平成30年(2018年)
	157/478(32.8%)	80/477(16.8%)

### ●作成が進まない理由

- ・地区役員等の交代により、適切に引継ぎができていない。(そもそも個別避難計画を知らない。)
- ・専門的支援が必要な者(要介護度が高い者、重度の障害者等)は、地区役員等だけで作成できない。
- ・要支援者の心身の状態や生活実態が時間の経過とともに変化し、更新が難しい。

## (3) 地域防災力向上研修

- ・消防局主催の地域防災力向上研修の中で、個別避難計画の作成を地域防災関係者に依頼  
令和元年度 32地区 参加者 1,316人  
令和2年度 21地区 参加者 703人

## 2 避難行動要支援者の避難支援に係る国の動向

### (1) 災害対策基本法の一部改正（令和3年5月20日）

・避難行動要支援者名簿については市町村において普及が進んだものの、いまだ災害により、多くの高齢者が被害を受けており、避難の実効性の確保に課題がある。

※近年の災害における犠牲者のうち高齢者が占める割合  
令和元年東日本台風:約65%、令和2年7月豪雨:約79%

### (2) 避難行動要支援者の避難行動支援に関する取組指針の改定

・本改正にて、個別避難計画に関して大きく以下の点について取組指針が示された。

- ①避難行動要支援者の円滑かつ迅速な避難を図る観点から、個別避難計画について、市町村に作成を努力義務化。
- ②作成にあたっては、避難行動要支援者等の自ら避難することが困難な者のうち、優先度が高いと判断される者について、おおむね5年程度で作成することを目標。
- ③避難行動要支援者の心身の状況は変化するため、福祉専門職等と連携し、その心身の状況に応じて個別避難計画を更新することは、避難の実効性を高めるものであり、重要である。

### (3) 優先度の高い者の考え方

・優先度の高いと判断される者とは、ハザードマップで危険な区域に住む者、かつ、重度介護者・障害者、難病患者等の自ら避難をすることが困難な者をいう。

避難に支援が必要な 度合い (目安)	地域の災害リスク				
	高	⇔	中	⇔	低
<b>A</b> ・専門的な支援が必要な方 ・入院や施設入所を検討	<b>【公助中心】</b> <span style="background-color: red; color: white; padding: 2px;">最優先</span> ○専門職が対応しないと避難誘導が困難なケース。 ○住民だけでの対応が困難。		○優先度は低いが、マップを作成し、備えていくことが大切		
<b>B</b> ・一般避難所での生活が困難 ・福祉避難所の利用を検討	<b>【自助、共助中心】</b> ○地域の支え合いで対応していくことが必要。 ○マップが有効になる。				
<b>C</b> ・一般的な支援や見守りで生活可能 ・一般避難所、在宅での生活を検討					

#### (1) 内閣府モデル事業への参加

- ・令和3年度内閣府モデル事業への参加。個別避難計画の実証実験を行う。
- ・2モデル地区について、作成を支援する。
- ・要支援者を優先度の高い順にABCの三段階に分け、福祉事業所、地区、本市で共有を図る。
- ・福祉専門職が優先度の高いAの避難行動要支援者の個別避難計画を作成する。

#### (2) 目指す成果

- ・福祉専門職が個別避難計画を作成することで、地区住民の互助だけでは対応できない避難困難者のより実効性のある個別避難計画の作成が見込める。
- ・個別避難計画のサンプル、計画作成のフローチャート、研修動画等を作成し、今後に活かす。
- ・実証実験にて挙げた課題について、今後に活かす。

### (3) 現在までのモデル事業での取組状況

- ・庁内で計画作成関係課連携会議を開催し、市の関係部門で情報共有。
- ・内閣府、他自治体とのミーティングによるノウハウの共有。
- ・地域防災力向上研修等にて、地区役員、民生委員向け説明会開催。  
(モデル地区も含め、令和3年度は24地区、660名が参加)
- ・福祉専門職向け計画作成研修会開催。
- ・カンタンマップを活用した防災訓練
- ・個別避難計画のサンプルの作成

### (4) 現在把握している課題

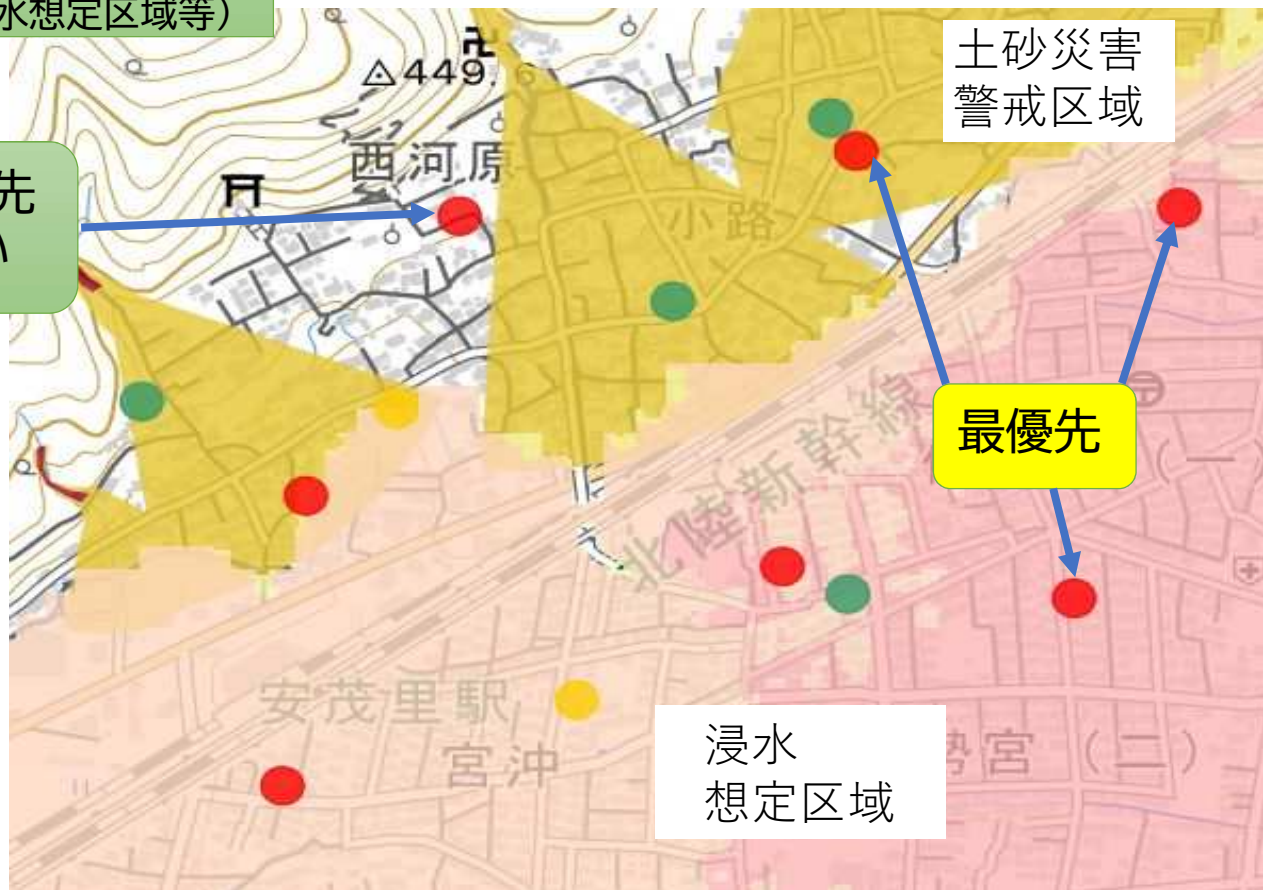
- ・福祉専門職の参画に支援が必要
- ・避難行動要支援者の避難を支援する者(避難支援者)の選定が困難

# (参考)優先度を踏まえた個別避難計画作成のイメージ

ハザードレイヤ表示  
(土砂災害警戒区域  
・ 浸水想定区域等)

長野県社会福祉協議会提供資料を一部加筆

Aだが優先  
度は低い



- ● ● 避難行動要支援者の自宅。(A ● B ● C ●)
- ● ● 区分は、避難に支援が必要な度合い(目安)を示す。



# 別紙

## わたしの避難計画

### 1 避難所への道順を書きましょう

自宅から



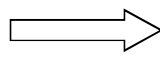
2 私の避難所は ○○小学校 です。

### 3 避難所へは、

自力で避難ができる  
 自力で避難ができない

自力で避難ができる

自力で避難ができない



避難方法は

車いす

です。

4 避難を手伝ってくれる人は、 2 人です。

1	信 濃 一 郎
2	信 州 太 郎
3	
4	
5	
6	

さんです。電話番号は

さんです。電話番号は

さんです。電話番号は

さんです。電話番号は

さんです。電話番号は

さんです。電話番号は

昼 夜	1 2 3 - 4 5 6 7
昼 夜	9 8 7 - 6 5 4 3
昼 夜	
昼 夜	
昼 夜	
昼 夜	

です。

です。

です。

です。

です。

です。

※協力者やその連絡先が昼間・夜間で異なる場合はわかるようにしておきましょう。

5 生命に関わるような非常持ち出し品（特別な薬や医療機器など）は

ありません  
 あります

ありません

あります

品名や保管場所などを書いておきましょう

医師の処方薬が台所の小物入れの中にあります

6 避難する際に、協力者に気をつけて欲しいことを書きましょう。

移動方法の注意や持ち出し品の取り扱い方などについて書いておきましょう

車いすのため早い移動はできません

## 緊急時の連絡先を記入しましょう

※健康保険証、各種医療受給者証、介護保険証、障害者手帳等は、ひとまとめにし、この計画書と共に持ち出せるようにしておきましょう。

ふりがな氏名	<b>長野市郎</b>	性別	<input checked="" type="radio"/> 男・女	生年月日	明治 大正 <input checked="" type="radio"/> 昭和 平成	3年 3月 3日	年齢	84歳
住所	長野市 <b>大字鶴賀緑町1613</b>			自宅電話	<b>026-112-2334</b>			
				FAX番号				
携帯電話番号・アドレス								

### 緊急時の連絡先（家族、友人、知人）

氏名	<b>門前花子</b>	続柄	<b>長女</b>	同居 <input checked="" type="radio"/> 別居	住所	長野市〇〇1-2-3	電話	456-7890
氏名	<b>長野光</b>	続柄	<b>長男</b>	同居 <input checked="" type="radio"/> 別居	住所	長野市〇〇777	電話	135-7924

### 緊急時の家族以外の連絡先

	病・医院・薬局・事業所名	担当者氏名	電話番号
かかりつけの病院・主治医			
かかりつけ医	〇〇内科医院	〇〇医師	680-1357
かかりつけ薬局	〇〇薬局	〇〇薬剤師	975-3108
介護保険ケアマネージャー			
訪問看護ステーション			
利用施設職員等			

### 医療機器を使用している方の緊急時の連絡先

医療機器の会社			
酸素供給の会社			
電力会社			
その他			

※ 医療機器を使用している方は、緊急時の対応について機器メーカーの担当者とよく相談しておきましょう。

●●区自主防災会、〇〇地区住民自治協議会